

働きながら学ぶ、学びながら働く ～デュアルシステム型作業学習の取組～

熊本県立熊本支援学校 高等部 東町分教室

1 デュアルシステム型作業学習とは

本校高等部東町分教室では、作業班の総合サービス班でデュアルシステムという方法を用いて、週2日、健軍商店街にある『特定非営利法人お～さぁ「健軍くらしささえ愛工房」』で終日、接客を中心とした現場実習に取り組んでいます。

デュアルシステムとは、ドイツで始まったマイスター制度に由来し、学校で基礎学習を行い、並行して実社会で実務的な内容を学ぶ制度です。東町分教室では、学校での学びが実社会での経験を通して確実なものとなるよう、通常行っている作業学習の中にデュアルシステムを取り入れました。

2 取組の紹介

学校では、挨拶や返事、身だしなみ等、働くうえで必要な社会スキルを授業の中で学びます。そのうえで、現場実習で直接、人と触れ合いながら、接客マナーや言葉遣い等、実践での経験を通しての学びを深めています。

従来現場実習では、2週間程度続けて事業所等に出向き働く経験を積んでいました。それに対して本校のデュアルシステムは、毎週2日決められた曜日・時間に校外で実習をします。学校での学びを実社会で実践し、その実践から学んだことを記憶が鮮明なうちに学校での指導にフィードバックすることで、学びの累積化を図ります。毎日、デュアルシステムに参加した生徒は、勤務終了後に自己評価シートをもとに振り返り、課題を整理します。さらに職場からの評価を加え、これまで気付かなかった自分の新たな一面や自分の力が社会でも通用する実感味わうことにつながっています。例えば、人前で大きな声であいさつすることを目標としていた生徒は、お客様が振り向いてくれたことで、声のボリュームを実感できました。また、実際にレジ打ちや食品の調理から盛りつけまで仕事を任せられ、責任の重さを知る生徒もいました。学校ではできない経験を通して、自己の課題を一つ一つクリアしながら、達成感や成就感を実感し、更なる自信を得ることができています。ここで身につけた力を就労へとつなげたいと考えています。

3 今後に向けて

東町分教室では、作業学習の一環としてデュアルシステムを取り入れ、これまでの作業学習を見直す機会にもなっています。

生徒が働く力をつけ、就労にスムーズにつながるよう、段階的な学びの場を設定することや、生徒のニーズに対応できるよう、学校と地域（事業所）が連携し、継続的に生徒の就労に向けた支援を行っていくことが今後の課題であると感じています。

今後も日常的に社会から学ぶ環境を構築し、生徒の希望進路の実現に向けた支援を行っていきたいと考えています。



←お客様の声や反応等、直接触れ合う中で感じることは、生きた学習につながっています。



←週2日、終日継続的に働くことで、社会の一員として自己の役割を実感しています。